

1. 第1次世界大戦前のロシア帝国の国際環境

1. 前史

1.1. 西欧におけるヴェストファーレン（ウエストファリア）体制の構築

1648年10月24日、ヴェストファーレン条約、ドイツのヴェストファーレン州ミュンスターで締結。30年戦争の終結。

この条約の成立により、ローマ教皇・ローマ帝国皇帝による西ヨーロッパの統一的支配が事実上断念され、これ以降、西欧においては、対等な主権を有する諸国家が、外国の存在を前提として勢力均衡の中で国益をめぐる合従連衡を繰り返す国際秩序が形成された。この条約によって規定された国際秩序をヴェストファーレン（ウエストファリア）体制とも言う。

西欧における国民国家の成立。国際法秩序の形成。

1.2. ユーラシアにおける大帝国の発展

1271年 元帝国の成立

1299年 オスマン帝国の建国

1368年 明帝国の建国

1480年 モスクワ大公国の自立（キプチャク汗国の終焉）

1547年 ロシア帝国の成立。イヴァン4世、全ロシアのツァーリを称する。この頃、バルカン半島諸国がオスマン帝国支配下となる

1587年 ポーランド王国の成立

1613年 ロマノフ朝の成立

1795年9月 ロシア帝国によるポーランド王国の併合

1812年6～10月 ナポレオンのロシア侵攻と撤退。

2. ナポレオン戦争（「祖国戦争」）後の「ウィーン体制」

2.1. 神聖同盟の成立

1815年9月末、アレクサンドル1世（在位1801～1825）、オーストリア皇帝、プロイセン国王がまず締結のち、ローマ教皇、トルコ皇帝、イギリス国王の3者を除く全ヨーロッパの君主が加わるキリスト教国の君主間の友好的関係に基づく盟約で、政治・外交上の内容を含まず

2.2. 四国同盟の成立

1815年11月20日、イギリス、ロシア、オーストリア、プロイセンにより結成

ウィーン会議最終議定書による「ウィーン体制」を維持し、定期協議を開催して革命の防止、国際紛争収拾をはかることを目的とした。翌年、フランスが加わり五国同盟となる。

「ウィーン体制」下において、1853年のクリミア戦争まで、「ヨーロッパ協調」時代が続く。ロシアは、「ウィーン体制」下、旧制度の伝統による秩序の復興者・擁護者として、「ヨーロッパ協調」時代に主導的役割を果たす（＝「ヨーロッパの憲兵」）。

3. 領土拡大と東方問題

ニコライ1世（在位1825～55）の外交目標
①東方問題の有利な解決ニオスマン・トルコ帝国弱体化に乗じてバルカンの正教徒をトルコの支配下から救出すること
②ザカフカージエ（グルジアもアルメニアも正教国）の安全保障のために近東に進出すること

3.1. ザカフカージエ、中央アジア、極東への進出

1826～28年	ペルシアと戦って、アルメニアを獲得
1828～29年	トルコと戦って、ザカフカージエのほぼ全域を支配下におさめる
1830年代～60年代	ダゲスタン諸民族、チェチェン人、アディゲイ人らカフカース山岳諸民族との戦争（カフカース戦争）によりカフカース山岳地域の支配権を確立
1840年代	中央アジアへ進出
1858年	アイグン（愛琿）条約によりアムール川北岸までを領土とする

3.2. 東方問題

3.2.1. ギリシア独立支援を名目に露土戦争を開始

1821年～	ギリシア独立運動の激化
1827年10月	英仏とともにトルコ・エジプト（当時、トルコ支配下にあった）艦隊を破り、ギリシア独立を支援
1828年4月	ロシア単独でトルコに宣戦、アドリアノーブルを占領
1829年9月	トルコと「アドリアノーブル条約」を締結 ギリシア、モルダヴィア（現モルドワ）、ワラキア、セルビアの自治の承認 ドナウ川河口、カフカース地方の黒海沿岸のロシアへの割譲 ロシア船のダーダネルス、ボスポラス海峡の自由通航権の獲得 →欧州への穀物輸出の拡大 トルコ国内でのロシア製品の関税免除

3.2.2. エジプト問題

1831年～	トルコ支配下のエジプト太守ムハンマド・アリーへの反乱 ロシアはトルコを支援し、エジプトを抑える
1833年	「ウンキヤル・スケレッシ（フンカール・イスケレシ）条約」締結 トルコと攻守同盟を締結 ダーダネルス、ボスポラス海峡の独占的通航権（ロシアおよびトルコ以外の国の船舶の通行禁止）の獲得＝ロシア外交の勝利
1839年	フランスの支援を受けたエジプトがトルコと戦争 イギリス、オーストリア、プロイセン、ロシアの4国がエジプトを抑える
1840～41年	「ロンドン協定」 ①「ウンキヤル・スケレッシ（フンカール・イスケレシ）条約」の破棄 ②ダーダネルス、ボスポラス海峡、平時にはすべての国の軍艦の通航禁止＝イギリスの対ロシア外交の勝利 →ロシア、この状態から脱することをめざしクリミア戦争を引き起こす

3.3. クリミア戦争

直接的原因＝エルサレム管理権をめぐる問題

1852年	トルコ皇帝が、エルサレム管理権を正教徒から奪い、カトリック教徒に与える
1853年	ロシアが、トルコに圧力をかけるも、英仏の支持を受けたトルコがこれを拒否 ロシアが、トルコの宗主権のもとに自治を与えられているモルダヴィア（現モルドワ）とワラキアに出兵
1853年10月	トルコが、ロシアに宣戦
1853年11月	ロシアが、トルコの黒海艦隊を全滅させる
1854年3月	英仏が、艦隊を黒海に派遣し、対露宣戦布告 オーストリアとプロイセンが、ロシアにモルダヴィア（現モルドワ）とワラキアからの撤兵を要求
1854年秋～	クリミア攻防戦
1855年3月	ニコライ1世急死
1855年9月	ロシア軍が、セヴァストポリスを放棄

- 1856 年 3 月 「パリ講和条約」締結
 ロシアは、カルスを放棄し、トルコはセヴァストーポリをロシアに返還
 ベッサラビア南半部を失う
 トルコにおける正教徒保護権を失う
 黒海での艦隊保有権を失い、黒海沿岸の要塞の破壊を義務づけられる（黒海中立化条項）
 ダーダネルス、ボスポラス海峡は、平時にはすべての国の軍艦が通航禁止となる

クリミア戦争の敗北は、ロシアにとっては東方問題の解決の挫折→大改革へ
 ただし、中央アジア・極東への進出は続く（1860 年北京条約により沿海州を獲得）
 クリミア戦争＝「ウィーン体制」の崩壊

4. 露土戦争

4.1. 三帝同盟

- 1867 年 オーストリア＝ハンガリー帝国の成立
 1870～71 年 普仏戦争（フランスの敗北に終わる）
 1870 年 10 月 31 日 ロシア、1856 年「パリ講和条約」の黒海中立化条項を破棄
 1871 年 3 月 13 日 ロンドン会議、議定書調印
 ダーダネルス、ボスポラス海峡通航許可権はトルコに残すが、ロシアは黒海における軍事基地建設、軍艦保有権を獲得
 1873 年 5 月 6 日 「露独軍事協定」締結
 1873 年 6 月 6 日 「露奥軍事協定」締結→「三帝同盟」の成立

4.2. バルカン情勢

- 1858 年 「モスクワ・スラブ福祉委員会」創設
 オスマン・トルコ治下のスラブ民族の学校、協会、図書館に図書を寄贈
 スラブ人留学生への支援
 1866～68 年 セルビア人、モンテネグロ人、ギリシア人、亡命ブルガリア人、ルーマニア人による「バルカン同盟」結成
 1875 年 ボスニア・ヘルツェゴヴィナで、トルコ政府による税金（キリスト教徒の軍務を免ずる代わりに徴収される税＝「ベデリ」）引き上げに反対して暴動が勃発
 1875 年 12 月 30 日 オーストリア＝ハンガリー帝国外相アンドラーシ、三帝国の名において、バルカン諸民族の信仰の自由、ボスニア・ヘルツェゴヴィナから徴収された税金を当該地方のため支出することなどの改革案を提示
 トルコはこれを無視
 ロシア内ではスラブ諸民族支援、反トルコ意識が高まる
 1876 年 4 月 ブルガリア民族蜂起
 1876 年 6 月 セルビア、モンテネグロ、対トルコ宣戦布告
 セルビア軍を指揮したのはロシア人將軍
 1877 年 1 月 ロシア、オーストリア＝ハンガリー秘密協定
 オーストリア＝ハンガリー帝国は、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ領有権をロシアが承認するという条件でロシアがトルコと戦う場合に中立を守る
 1877 年 2 月 セルビア降伏
 1877 年 4 月 24 日 ロシア皇帝アレクサンドル 2 世、キシニョフで、トルコに宣戦布告
 1877 年 5 月 ルーマニアが独立し、ロシア軍と合流
 セルビア、モンテネグロが再度、トルコに対し宣戦、ロシア側は、アドリアノーブルまで占領、ザカフカージェエではアルダハン、スフミ、カルスを占領し、優勢

- に立った
- 1878年1月31日 休戦協定締結
ブルガリアは自治公国、ルーマニア、セルビア、モンテネグロは独立国、ボスニア・ヘルツェゴヴィナは自治州となる
- 1878年3月3日 ロシアとトルコ、「サン・ステファノ条約」締結
休戦協定の履行のほか、黒海・アドリア海両方に接する大ブルガリア自治公国が成立
ロシアは南部ベッサラビアを奪還、ザカフカージエではアルダハン、カルス、パトゥーミを獲得
ロシアの南下政策をおそれたイギリス、オーストリア＝ハンガリーは、「サン・ステファノ条約」に不同意
- 1878年5月30日 露英秘密合意→ブルガリアの南北分割（バルカン山脈が境界）
- 1878年6月16日 英土「キプロス協定」締結
イギリスのトルコ支援、イギリスのキプロス占領の確認
- 1878年7月13日 「ベルリン協定」締結
ルーマニア、セルビア、モンテネグロの独立を承認
ブルガリアは分割
マケドニアはトルコに返還
ボスニア・ヘルツェゴヴィナはオーストリア＝ハンガリー帝国が占領

ベルリン協定の結果

- ・ ロシアは地中海進出を阻止される
- ・ イギリスとオーストリア＝ハンガリー帝国は漁夫の利を得る
- ・ ドイツはトルコと接近する

5. バルカン危機

- 1881年4月 ブルガリアでクーデター勃発
- 1885年 東ルーマニア（南北に分割されたブルガリアの南半部）で暴動、ブルガリアの南北統一を要求
- 1886年8月 ブルガリアで再びクーデター
- 11月 ブルガリアのロシア領事館、襲撃される
ロシアはブルガリアと断交
ブルガリアは親オーストリアに
ロシアは反ドイツ、反オーストリア、親フランスに傾斜